

令和6年12月熊野市教育委員会会議録

1. 日 時 令和6年12月26日(木) 午後4時00分から
2. 場 所 熊野市民会館 北会議室
3. 出席者 倉本教育長、根引委員、糸川委員、北野委員、澤田委員
4. 事務局説明員
雑賀総務課長、浦坪学校教育課長補佐、水口社会教育課長、
中田総務課庶務係長
5. 教育長報告
6. 議 事
議案第1号 熊野市部活動ガイドラインの改定(案)について
議案第2号 熊野市立学校管理規則の一部を改正する規則(案)について
議案第3号 熊野市学校運営協議会規則の一部を改正する規則(案)について
7. 報 告
報告第1号 令和6年度熊野市教育費補正予算(追加分)について
8. その他
 - (1) 市議会定例会一般質問の概要について
 - (2) 令和7年熊野市二十歳を祝う会について
 - (3) インフルエンザによる学級閉鎖の状況について
 - (4) クマの目撃情報と対応について

□開会(開会の宣言)

(教育長) それではただいまから、令和6年12月熊野市教育委員会会議を始めさせていただきます。事項書に沿って進めてまいります。

□教育長報告

(教育長) 事項2 報告、別紙をご覧ください。

(経過報告、事件・事故等、今後の予定・その他について報告)

(教育長) それでは、教育長報告の中で質問等ございませんでしょうか。

(委 員) 今後の予定の中で2月1日に人権講演会があるんですが内容を教えてください。

(事務局) 今年度の人権公演会は、市民保険課と一緒に歌手の木山裕策さんの講演です。すでに整理券の配布は始まっております。

(教育長) 昨年度までは、教育委員会で市の人権講演会、市民保険課も同じようなことをやってたんですがこれを合わせて一つにしようと今年度からやっています。そのほかありませんでしょうか。

(教育長) ないようですので、事項3 議事に入ってまいります。議案第1号 熊

野市部活動ガイドラインの改定（案）についてお願いします。

(事務局) (熊野市部活動ガイドラインの改定（案）について提案)

(教育長) それでは、議案第1号について質問等ございませんでしょうか。

(事務局) 地域人材の活用ということで木本中学校と有馬中学校で計6名の方がボランティアでということですか。

(事務局) 県と国、そして市からそれぞれ1／3ずつお金が出て有償でやっていただいております。顧問がその種目の経験がないということで顧問と一緒に指導していただくということで1時間当たりの単価で入っていただいております。

(委員) 平日及び土曜日、日曜日とか、大会があったらついていくとかもするんですか。

(事務局) みなさん仕事を持っておられる方が多いので、平日については少ないですが、土日どちらかを練習日としていますので土日を中心に、平日も来れる方については平日もお願いしております。種目は、男女バスケットボール、女子バレーボール、ラグビー、野球、ソフトテニスなんですけど大会等では一緒にベンチに入っていて指導も一緒に行っていると思います。

(委員) 有馬中学校は有馬中学校、木本中学校は木本中学校の部活動ということでされているんですか。他の学校と一緒にやってということはないんですか。

(事務局) ほとんどは、まだ合同チームとなっておりませんので、それぞれの中学校の種目に入っていていただいております。ただバスケットボールについては、生徒数が減っていく中で、市内の中学校5校でバスケットボール部があるのは有馬中学校だけになってしまっております。ここについては、有馬中学校のバスケットボール部であればほかの中学校に通っているお子さんでも休日だけ有馬中学校のバスケットボール部に入ることができるとなっております。ここにも指導員の方が入っております。バスケットボールについては、合同チームへの指導ということで入っていただいております。

(委員) ほかの中学校の子が参加できるとおっしゃったんですが、もうすでに中学校とか子どもたちに周知されているんですか。

(事務局) 令和6年度から始めたんですけれども小学校5年生以上、中学校1、2年生のお子さんには学校を通じてプリントで周知をさせていただいたところですが、あくまでも休日だけということで、平日は自分の学校の部活をして休日だけバスケットボールということになってまして、平日と休日のバランスというところでなかなか難しいところがあると思いま

す。

(委員) ありがとうございます。

(委員) 休日だけ有中のバスケットボール部に参加するけれども大会があるときはその子たちは部外者ということになるんですか。

(事務局) 大会の日程がかぶらなければどちらでも参加できます。

(委員) 有馬中学校の生徒として大会に参加するんですか。

(事務局) 有馬中学校のユニフォームで参加するんですが熊野市の拠点校部活動として指定しておりますので、名前は有馬中学校で参加することも可能ですし、熊野市バスケットボール部として参加することも可能です。

(委員) 地域の大会とか、県大会予選とかも参加できるんですか。

(事務局) 中体連の大会であったり、協会であったとしてもチームの一員として参加することができます。

(委員) わかりました。

(教育長) そのほかありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

(委員) はい。

(教育長) それでは、議案第1号熊野市部活動ガイドラインの改定(案)についてご承認いただけますでしょうか。

(委員) はい。

(教育長) ありがとうございます。承認いただきました。続きまして議案第2号熊野市立学校管理規則の一部を改正する規則(案)についてお願いします。

(事務局) (熊野市立学校管理規則の一部を改正する規則(案)について提案)

(教育長) 議案第2号について質問等ございませんでしょうか。

(委員) 特にないです。

(教育長) 議案第2号 熊野市立学校管理規則の一部を改正する規則(案)についてご承認いただけますでしょうか。

(委員) はい。

(教育長) ありがとうございます。承認いただきました。続きまして議案第3号熊野市学校運営協議会規則の一部を改正する規則(案)についてお願いします。

(事務局) (熊野市学校運営協議会規則の一部を改正する規則(案)について提案)

(教育長) 議案第3号について質問等ございませんでしょうか。

(委員) ありません。

(教育長) それでは、議案第3号 熊野市学校運営協議会規則の一部を改正する規則(案)についてご承認いただけますでしょうか。

(委員) はい。

- (教育長) ありがとうございます。承認いただきました。続いて事項4 報告第1号 令和6年度熊野市教育費補正予算(追加分)についてお願いします。
- (事務局) (令和6年度熊野市教育費補正予算(追加分)について説明)
- (教育長) 報告第1号について質問等ございませんでしょうか。
- (委員) 特にありません。
- (教育長) よろしいでしょうか。
- (委員) はい。
- (教育長) 報告第1号につきましては報告ですのでこれで終わらせていただきます。事項5その他(1)市議会定例会一般質問の概要についてお願いします。
- (事務局) (市議会定例会一般質問の概要について説明)
- (教育長) 一般質問の概要について質問等ございませんでしょうか。
- (委員) タブレットで自宅学習できるようにということで主にeライブラリーとロイロノートということでお話があったんですがeライブラリーが主に学習する用のものなんですか。それを宿題用として出せたりすることができるのでしょうか。
- (事務局) eライブラリーは、ドリルのような感じでして例えば中学生であればこれから3年生は受験になってくるんですけど、過去の入試問題もできるということで個人の苦手な教科、あるいはレベルに合わせて取り組むことができるということです。ただ小学校の場合は、ダウンロードしたものでなければネット環境につなげないということでダウンロードしたものについてどこまでが可能かわからないんですが、ネットに繋ぐことができる中学校の場合は受験に対しても活用が可能です。家庭で使えるものはeライブラリーになると思います。ロイロノートは、授業の中で質問に対して子どもたちがどのように考えているかを画面に出せたり、子どもたちの発表の発表ツールとして活用したり主に授業で使うものになってくると思います。
- (委員) eライブラリーは、その子が勉強したいところを自分で取り組めるという形で、学校側からここを宿題という形でも使えるのでしょうか。
- (事務局) 可能となっております。
- (委員) ありがとうございます。
- (教育長) そのほかありませんでしょうか。よろしいでしょうか。
- (委員) はい。
- (教育長) それでは、教育長報告から5その他まで通して何かありましたらお出しください。

- (委員) レジリエンスの取り組みで県で指定校が2つあるということでしたが、その取り組み方というのは、資料でトレーニングで鍛えられると書いてますがこの取り組みはいつから始めたのでしょうか。
- (教育長) 詳しくはわかりませんが、レジリエンスという概念についてはずいぶん前からあります。精神的な部分での課題がたくさん出てきたということで県で2つの市が受託したのは何年前です。
- (事務局) おそらく令和3年から県の事業としてスタートしているものだと思います。そこでは県で2つということでしたが、その次の年にはさらに県下に広げていこうということで熊野市の木本小学校もこの事業をうけてこのレジリエンス教育に取り組んでおります。主に自己肯定感を高めていくという取り組みで、ただ授業を聞くだけではなくて子どもたちが参加するようなワークショップのような授業をする中で子どもたちが自信をつける、互いに認め合えるようなクラスづくりを行っていく。教員もレジリエンス教育ができるように県の研修に参加させていただきました。
- (委員) 基本的なマニュアルがあつてという段階ではなく今は試行錯誤状態というような感じなのでしょうか。
- (事務局) 私も詳しく研修を受けたわけではないんですけども、一概にこうすればレジリエンスが高まるというものではなくて、高めていくためにこのような取り組みが有効だということで、学校で実際その授業をやっていただくというふうに動いております。
- (委員) わかりました。
- (教育長) レジリエンスというものに特化したものではなく、全学校の教育活動の中で子どもたちの自己肯定感であったり教育活動を総合的にどうやっていけば子どもたちが自主的に生き生きと学校生活を送ることができるかということですので教育活動全般での取り組みになると思います。
- (教育長) そのほかありませんか。
- (委員) この前岐阜の付属の学校をみさせてもらったんですけど「生きることについて」を課題として各学年で授業をしていました。そういうふうな取り組みが指定校的なイメージなのかなと思うんですが。
- (教育長) 岐阜教育大学の生きるという取り組み、それを教育課程の中に位置付けているということなんですが、あれは研究開発学校といって文部科学省の指定を受けて学習指導要領によらない取り組みができるというものです。だから授業日数も時間も使えるということなんですが、木本小学校が受託しているレジリエンスの授業については、学習指導要領教育課程の中で実施していかなければならないということで一定の制限

は受けます。既存の教育課程の中で取り組むこととなります。岐阜県の場合は、国の研究開発学校として特別な学校として指定されているためその制限がありません。

(委員) それは国のほうから連絡があって初めてできることで、こちらから私たちの町もそういうふうな取り組みをしたいとお願いすることは可能ではないんですか。

(教育長) 研究開発学校については国が募集します。そこに手をあげていくということになります。学校で意思統一したうえで教育委員会を通じて申請していくということになります。

(委員) いままで学力向上に取り組んでいますがなかなか結果が思うように出ていないというような現状だと思うんです。熊野市も思い切ってこういうのに手を挙げてみるのはどうなのかなと思うんですけど。

(事務局) やはりこれを受けるということは、当然受けるだけではなくて報告が伴うものであったり、なぜそれを受けるとかという自分たちが必要だということが必要になってくると思います。熊野市としてこれに集中して取り組むという部分をまずは整理していく必要があるのかなとその部分で必要性があるのであれば、大変なことではあると思いますが考えられることかと思えます。

(委員) 今までやってきたことで効果が出てるようではないような気がします。だから思い切って何かチャレンジする。チャレンジするための準備、結局準備したけどチャレンジできなかったとなったとしても。がんばって子どもたちの今後のために大人側も新しいことをやってみる、やれなかったとしてもそれにチャレンジしてみるのもどうかなと思うんですけど。子どもたちも先生方や保護者の姿を見てワクワクするというか楽しみを持つ取り組みがあってもいいなと思います。

(事務局) 学力の部分でなかなか成果がみえないということは、我々がまだまだ努力が必要な部分だと思うんですけど、この部分についても学校に今いろんなことで取り組んでもらっています。なかなか点数に現れない部分があるんですけども、今まで通りの授業ではなく例えば ICT を取り組むこともそうですし、教え方についても子どもたちが色々話しながら自分たちで思考力を高めていく授業であったりいろんなことに取り組んでもらっています。授業以外の部分でも昔に比べて〇〇教育というものが色々入ってきてます。そんな中で国の指定を受けるということは何か特化したものを作っていくということになると思うんです。熊野市であればこんなことに取り組んでいるというふうな目玉となるようなものを考えていって、あればそれが子どもたちの成長につなが

っていくのかなとは思いますが、その部分で何に特化してやっていくかということは自分たちの中でも話をして、もちろん授業とも並行してやっていく必要があると思うので、熊野市の子どもに必要な〇〇教育というのは何かということについてはさらに話し合いをしていく必要があると思います。

(委員) 学力に関しては点数でわかりますが、平均値については分母が小さい信頼度には課題があるという意見も聞きますので、学力に特化するのではなくて人間力を高めるような学校教育をしてもらおうと、学校を卒業したあとの長い人生にその子の役に立つのではないかなと思います。学校で人間力を高めるような取り組みを今までもやっていただいていると思いますがその辺を特化するような熊野市になったらいいのではないかなと思います。

子どもたちの長期的な先の人生を見据えた取り組みを小中でやっていただけたらいいのではないかなと思います。

(教育長) これはこちらからの回答は必要ですか。ご意見ということでよろしいですか。

(委員) そうですね。これに対してすぐにはないと思いますのでそういうことも一つの意見として。

(教育長) 今言っていた意見は教育委員会としても思っている部分でもございます。ただ現段階で新たにというのは非常に困難です。今ある中でどう運用してどう入れ込んでいくかという議論がまず必要なのと、根本的に各々の自己肯定感や主体的な学習活動の場面を増やしていくことが大事なのかなということです。

(教育長) そのほかございませんでしょうか。

(教育長) それでは、その他(2)令和7年熊野市二十歳を祝う会についてお願いします。

(事務局) (令和7年熊野市二十歳を祝う会について説明)

(教育長) 二十歳を祝う会について質問等ございませんでしょうか。

(委員) ありません。

(教育長) (3) インフルエンザによる学級閉鎖の状況についてお願いします。

(事務局) (インフルエンザによる学級閉鎖の状況について説明)

(教育長) (3) について何かございませんでしょうか。

(委員) はい。

(教育長) それでは(4)クマの目撃情報と対応についてお願いします。

(事務局) (クマの目撃情報と対応について説明)

(教育長) この件につきまして何か質問等ございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

(委員) はい。

(教育長) それでは、これをもちまして令和6年12月教育委員会会議を閉じさせていただきます。

(教育長) 次回につきましては、1月30日午後4時から、文化交流センター多目的ルームで開催させていただきます。ありがとうございました。